

2014年度 法科大学院
第3回 既修者入学試験問題
4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法・商法
(論文式)

試験時間 90分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。

事 例

Xは自転車で横断歩道を横断中、Yの運転する自動車に衝突し、傷害を負った。そこで、Xは、Yに対して、自動車損害賠償保障法に基づき、損害賠償請求の訴えを提起した。

設 問

1. Xは、治療費100万円、逸失利益800万円、慰謝料300万円の合計1200万円の支払を求めて訴えを提起したところ、裁判所は、証拠調べの結果、治療費100万円、逸失利益450万円が当該事故に起因する損害であると判断したが、慰謝料については450万円を認め、合計1000万円の支払を命じる一部認容判決をしようと考えている。このような判決をすることは適法か。
2. 上記1000万円の支払を命じる一部認容判決が確定した後、Xに前訴当時予想できなかった後遺症が発生し、それについての治療費、逸失利益および慰謝料の合計1500万円の支払を求めて、XがYに対して再度訴えを提起した。裁判所はどのように判断すべきか。

(解答は全て解答用紙に記入すること)

[刑事訴訟法]

つぎの設問に答えなさい。

設 問 1

甲がM宅に放火したという放火事件の公判において、証人Aは、「自分は、甲がM宅に放火するのを目撃した」と供述した。その後、弁護人は、刑事訴訟法328条により、Aの警察官調書（この調書には、Aは、誰かがM宅に放火するのを目撃したが、甲であるとは断定できない旨の記載がある。）を証拠として請求した。裁判所はこの証拠を採用し取り調べることができるか。

設 問 2

設問1において、証人Aの供述後、検察官が、刑事訴訟法328条により、Bの警察官調書（この調書には、Bが、事件当日M宅付近で不審な行動をしている甲を目撃した旨の記載がある。）を証拠として請求した場合、裁判所はこの証拠を採用し取り調べることができるか。

（解答は全て解答用紙に記入すること）

[商法]

次の各設問に、根拠となる条文がある場合にはその条文番号を引用して、判例が存在する場合にはその旨の判例が存在することを指摘して、答えなさい。なお、解答の順番は設問の番号を明記すれば任意でよい。

設 問 1

A会社は資本金5億円の株式会社で普通株式のみを発行しており、定款に株式の譲渡制限の定めは置いていない。会社法上、A会社が選択しうる機関構成について説明しなさい。

設 問 2

株式会社の取締役の対第三者責任について、不法行為責任との関係や、直接損害と間接損害の意味内容に言及した上で、説明しなさい。

(解答は全て解答用紙に記入すること)